

令和4年度輸出環境整備推進委託事業
（マレーシアにおける日本産農林水産物・食品の市場参入（拡大）可能性調査）

報告書

2023年3月17日

株式会社 NTT データ経営研究所

注意事項

本調査事業は、農林水産省からの委託で、株式会社 NTT データ経営研究所が実施したものであり、本報告書の内容は農林水産省の見解を示すものではありません。

免責事項

この報告書に含まれるすべての情報は、調査時点で正確かつ信頼できると思われる情報源から調査・作成されたものですが、農林水産省及び委託事業者である株式会社 NTT データ経営研究所とそのグループ会社・再委託会社は、本報告書のいかなる部分に影響する誤り、不正確さ、脱落から生じるいかなる損失又は損害に対しても、一切の責任を負うものではありません。全ての情報は無保証で提供され、農林水産省及び委託事業者である株式会社 NTT データ経営研究所とそのグループ会社・再委託会社はここに含まれる情報の正確性又は完全性について、いかなる種類の保証も行わないものではありません。

目次

略語一覧	4
専門用語集	6
エグゼクティブサマリー	9
1.0 市場概要	18
1.1 かんしょ	21
1.2 梨	32
1.3 柿	44
1.4 メロン	53
2.0 商流・販売	66
2.1 流通・販売経路	66
2.2 消費動向	83
3.0 輸入規制	90
3.1 青果物	90
3.2 加工食品	107
3.3 ハラル認証	117
3.4 適正農業規範(GAP)	120
3.5 外国からの流通貿易サービス業への参入規制	121
4.0 市場参入・拡大に対する規制・インフラの障壁	136
5.0 輸出戦略検討	139
5.1 輸出促進のために考慮すべき事項	139
5.2 調査対象品目ごとの市場参入のための戦略提言	147

略語一覧

全般

頭字語/略語	概要
DOA	農業・食糧安全保障省農業局
MAFI	農業・食品産業省（現在の農業・食糧安全保障省）
MAFS	農業・食糧安全保障省
KLIA	クアラルンプール国際空港
MARDI	マレーシア農業研究開発機関（MARDI）
MS	マレーシア規格
MYR	マレーシアリンギット（マレーシアの通貨名）
USD	米ドル
WHO	世界保健機関

規制調査

頭字語/略語	英語名称	概要
AHTN	ASEAN (Association of Southeast Asian Nations) Harmonised Tariff Nomenclature	ASEAN 統一関税品目表
AJCEP	ASEAN-Japan Comprehensive Economic Partnership	日本 ASEAN 包括的経済連携
AQL	Acceptable Quality Limit	許容品質限界
Austrade	Australian Trade and Investment Commission	オーストラリア貿易投資委員会
CIF	Cost, insurance, and freight	原価・保険・運賃
CoC	Certificate of Conformity	農産物適合証明書
DOA	Department of Agriculture	農業・食糧安全保障省農業局
E-Permit	Electronic Permit	電子許可証
FAMA	Federal Agricultural Marketing Authority	連邦農業マーケティング庁
FHCB	Foreign Halal Certification Bodies	海外ハラール認証機関
FOB	Free on board	本船渡し条件
FoSIM	Food Safety Information System of Malaysia	マレーシア食品安全情報システム
FSQD	Food Safety and Quality Division	保健省食品安全品質管理部
GAP	Good Agricultural Practices	適正農業規範
GHP	Good Hygienic Practices	適正衛生規範
GMP	Good Manufacturing Practices	適正製造規範
GPL (3P)	Grading, Packaging and Labeling (Sijil 3P : Sijil Penggredan, Pembungkusan Dan Pelabelan)	等級、包装、表示（マレー語の略で 3P と呼ばれる）
HACCP	Hazard Analysis and Critical Control Points	危害分析重要管理点
HS	Harmonised System	関税分類
HTR	Hold, Test and Release	ホールド、テスト、リリース（衛生植物検疫措置の一環）

頭字語/略語	英語名称	概要
ISO	International Organization for Standardization	国際標準化機構
ITA	Italian Trade Agency	イタリア貿易振興会
JAKIM	Department of Islamic Development Malaysia or Jabatan Kemajuan Islam Malaysia	マレーシア・イスラム開発省
JETRO	Japan External Trade Organization	日本貿易振興機構
KAFFTC	Korea Agro-Fisheries & Food Trade Corporation	韓国農水産食品貿易公社
KLIA	Kuala Lumpur International Airport	クアラルンプール国際空港
MAFI	Ministry of Agriculture and Food Industries	農業・食品産業省(現 農業・食糧安全保障省)
MAFS	Ministry of Agriculture and Food Security	農業・食糧安全保障省
MARDI	Malaysian Agricultural Research and Development Institute	マレーシア農業研究開発機構
MAQIS	Malaysian Quarantine and Inspection Services	農業・食糧安全保障省マレーシア検疫検査サービス局
MOQ	Minimum Order Quantity	最小発注量
MPJA	Muslim Professional Japan Association	ムスリムプロフェッショナルジャパン協会
MJEPA	Malaysia Japan Economic Partnership Agreement	マレーシア 日本経済連携協定
MS	Malaysian Standard	マレーシア規格
MYR	Malaysian Ringgit	マレーシアリングギット (マレーシアの通貨単位)
RCEP	Regional Comprehensive Economic Partnership Agreement	地域的な包括的経済連携
TAITRA	Taiwan External Trade Development Council	台湾対外貿易発展協会
TPP	Trans-Pacific Partnership	環太平洋戦略的経済連携協定
TQM	Total Quality Management	トータル・クオリティ・マネジメント
USD	United States dollar	米ドル
WHO	World Health Organization	世界保健機関

専門用語集

用語	概要
ASEAN 統一関税品目表 (AHTN: ASEAN Harmonised Tariff Nomenclature)	AHTN は、世界税関機構 が制定した 6 桁の HS コードに基づいて、ASEAN 加盟国が使用する 8 桁の HS コードである。マレーシアを含む各 ASEAN 加盟国は、商品の分類において一貫性のある均一な解釈により貿易を促進する AHTN の 8 桁の HS コードを設定している。マレーシアにおいて日本を含む全ての国との輸出入取引に適用される関税率表は「 関税率表 2022¹ 」である。
許容品質限度 (AQL: Acceptable Quality Limit)	AQL は、特定のサンプルサイズにおける不良品の最大許容数を測定するために使用される方法である。AQL は、輸入業者が輸入生鮮食品のバッチを検査する際に使用されることがある。
原価・保険・運送費 (CIF: Cost, insurance and freight)	これは船積み手配の一種で、売り手は貨物を船に積み込む責任を負い、必要な書類、免許、検査を取得する必要がある。また、売り手は船積み費用と輸送中の商品の保険料を負担する。
農産物適合証明書 (CoC: Certification of Conformance)	マレーシアでは、連邦農業マーケティング庁（ FAMA ）が農産物の等級づけ、包装、表示の仕様を定め、製品が要求される規格に適合していることを示す農産物適合証明書の発行を管轄している。
農業局 (DOA: Department of Agriculture)	DOA はマレーシア農業・食糧安全保障省（MAFS）（旧農業・食品産業省（MAFI））傘下の機関で、農業政策を実施し、作物保護プログラムやバイオセキュリティサービスを通じて、産業用および食用の作物を害虫や病気の脅威から守る役割を担っている。
連邦農業マーケティング庁 (FAMA: Federal Agricultural Marketing Authority)	マレーシア農業・食糧安全保障省（MAFS）（旧農業・食品産業省（MAFI））傘下の連邦農業マーケティング庁（ FAMA ）は、マレーシアの農産物の品質を監督、調整、規制することを任務とする機関である。FAMA は農産物の等級、包装、表示に関する要件を実施し、製品が基準を満たしていることを確認するために小売店での検査を行っている。
船内渡し (FOB: Free on board)	船積み手配の一種で、売主が輸出用貨物の通関を行い、指定された出港地で輸送用船舶への引き渡しと積み込みを確実に行うものである。買い手は、商品が出港地で輸送船に積み込まれた時点で、輸入通関や関税を含むリスクとコストを引き受ける。
マレーシア食品安全情報システム (FoSIM: Food Safety Information System of Malaysia)	FoSIM は、保健省傘下の食品安全品質管理部（FSQD）が、輸出、輸入、認証、ライセンス、サンプリング、検査、トレーニングなど、食品業界のサプライチェーン全体を監視するために利用している統合エンタープライズ Web システムである。マレーシアに輸入されるすべての食品は、現地輸入業者によって FoSIM に通知されなければならない。

¹ [www.customs.gov.my/en/pg/Customs Order/P.U. \(A\) 114 - Peintah Duti Kastam 2022.pdf](http://www.customs.gov.my/en/pg/Customs%20Order/P.U.%20(A)%20114%20-%20Peintah%20Duti%20Kastam%202022.pdf)

用語	概要
食品安全品質管理部 (FSQD: Food Safety and Quality Division)	食品安全品質管理部 (FSQD) は保健省管轄の政府機関であり、国、州、地区レベル、およびエントリーポイントで国家食品安全・品質プログラムの計画、実施、監視、評価を行うことを任務としている。FSQD は FoSIM プラットフォームを通じて、食品の輸入を管理・承認している。
適正農業規範 (GAP: Good Agricultural Practices)	適正農業規範(GAP)とは、農産物の安全性と品質を向上させるために、国際的に認められた農産物の規格を指す。GlobalGAP ² が最も有名であるが、マレーシア、タイ、ベトナム、韓国、中国など、アジア各国でも各国版 GAP が開発されている。
等級、包装、表示 (GPL: Grading, Packaging and Labeling)	等級、包装、表示 (GPL ³) は農産物の効率と効果を向上させるために 連邦農業マーケティング庁 (FAMA) が定めた義務的な規制である。GPL 規則は、国内、輸出、輸入市場を網羅し、マレーシア規格 (MS) の等級仕様に従った等級付け、包装、ラベル付けの実施方法を網羅している。(Sijil Penggredan, Pembungkusan Dan Pelabelan の略で 3P と呼ばれる)
関税分類 (HS: Harmonised System)	HS とは、世界税関機構 (WCO) が開発した、輸出入時の商品分類のための国際的な関税分類 (6 桁レベル) である。マレーシアの HS 関税表はマレーシア税関によって作成され、Customs Duties Order 2022 ⁴ で入手可能である。
ホールド、テスト、リリース (HTR: Hold, Test and Release)	HTR は、マレーシアの衛生植物検疫措置の一環で、食品の安全性や表示など保健省食品安全品質管理部 (FSQD) の要求事項への準拠を確認するために、国境入口地点で輸入食品に対して行われるものである。HTR 審査とは、輸入時に食品を入手し、サンプルを採取して実験室で分析し、分析の結果、食品が 1983 年食品法およびその規則に準拠していることが示された場合に法令適合として認めることである。
マレーシア・イスラム開発省 (JAKIM: Jabatan Kemajuan Islam Malaysia)	JAKIM はマレーシアの連邦政府機関であり、イスラム事務を管理し、イスラム教徒のための宗教的な問題を調整する。JAKIM はマレーシアで唯一、関連する製品カテゴリーのハラール実施・監督を行うことができる機関である。
マレーシア農業・食品産業省 (MAFI: Ministry of Agriculture and Food Industries)	MAFI は、農業、農業関連産業、アグリツーリズム、家畜、獣医サービス、漁業、検疫、検査、農業研究、開発、マーケティング、および食糧安全保障を担当する政府省庁である。MAFI は DOA、FAMA、MAQIS などいくつかの機関を傘下に持っている。2022 年 12 月に行政組織再編により農業・食糧安全保障省に組織名を変更。
マレーシア農業・食糧安全保障省	MAFS は、農業、農業関連産業、アグリツーリズム、家畜、獣医サービス、漁業、検疫、検査、農業研究、開発、マーケティング、および食糧安全保障を担当する政府省庁である。

² https://www.globalgap.org/uk_en/

³ <https://www.fama.gov.my/gpl>

⁴ [https://lom.agc.gov.my/ilims/upload/portal/akta/output/p1729676/P.U. \(A\) 114_2022 \(DUTI KASTAM\).pdf](https://lom.agc.gov.my/ilims/upload/portal/akta/output/p1729676/P.U. (A) 114_2022 (DUTI KASTAM).pdf)

用語	概要
(MAFS : Ministry of Agriculture and Food Security)	MAFI は DOA、FAMA、MAQIS などいくつかの機関を傘下に持っている。2022 年 12 月に行政組織再編により農業・食品産業省から農業・食糧安全保障省に組織名を変更。
マレーシア農業研究開発機関 (MARDI: Malaysian Agricultural Research and Development Institute)	MARDI はマレーシア農業・食糧安全保障省（MAFS）（旧農業・食品産業省（MAFI））傘下の法定機関で、マレーシアにおける農業技術や食品加工に関する研究開発（R&D）プロジェクトを主導する任務を負っている。MARDI は、マレーシアで栽培されている一般的なかんしよの品種をいくつか開発している。
マレーシア検疫検査サービス局 (MAQIS: Malaysian Quarantine and Inspection Services)	マレーシア検疫検査サービス局(MAQIS)はマレーシア農業・食糧安全保障省（MAFS）（旧農業・食品産業省（MAFI））傘下の政府機関で、動物、枝肉、魚、農産物、土壌、微生物の輸出入に関する検疫、検査、入国地、検疫所、施設検疫、証明書の発行を行っている。MAQIS はまた、新鮮な果物や野菜の輸出入のための許可証発行機関としても機能している。
保健省 (MOH: Ministry Of Health)	保健省（MOH）は、マレーシアの公衆衛生と安全に関する健康法、政策、ガイドラインを担当する政府省庁である。これには、健康管理、医療、医薬品、疾病管理、栄養に関する制度が含まれます。MOH の食品安全担当の主要機関は保健省食品安全品質管理部（FSQD）である。
マレーシア規格 (MS: Malaysian Standard)	MS は、特定の製品の品質と安全性の最低要件を規定する技術文書である。マレーシアの国家規格機関（NSB）および国家認定機関（NAB）として機能するマレーシア規格局（DSM）によって管理されている。DSM は FAMA、MAFI、DOA などの主要なステークホルダーと協力して、生鮮野菜・果物の MS 規格を導入した。
マレーシア王立関税局 (RMCD: Royal Malaysian Customs Department)	マレーシア王立関税局（RMCD）は財務省（MOF）傘下の政府機関で、税関行政、間接税政策、貿易円滑化を担当している。RMCD は、関連する政府省庁が定めた産業、輸出入、国境管理に関連する政策を実施する。

エグゼクティブサマリー

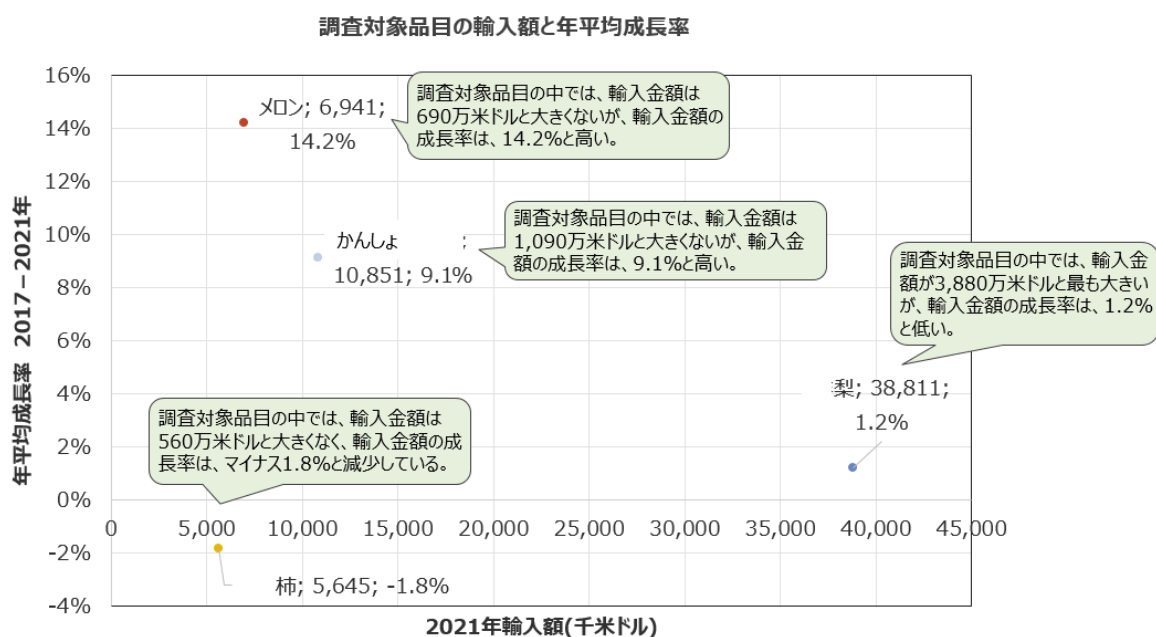
市場調査概況

(1) 調査対象品目のかんしょ、柿、梨、メロンに関して、マレーシアにおける輸入額と輸入額の年平均成長率を分析した。それぞれの品目で輸入金額、輸入金額の成長率で特徴が出ている。

市場調査サマリー

調査対象品目の輸入額と年平均成長率

調査対象4品目の輸入額と輸入額の年平均成長率は以下のような状況となっている。



出典：ITC Trade Map（2022年）

かんしょ 梨 柿 メロン

(2) かんしょの市場調査概況

① 国内生産状況

・かんしょの生産量は 2016 年から 2021 年の間に年平均成長率 6.3%で増加しており、2021 年には 58,714 トンとなっている。

② 輸出入の状況

・マレーシアのかんしょの輸出額は、2021 年に約 100 万米ドル、輸出量は 2,282 トン、輸出金額は 2017 年から 2021 年にかけて年平均成長率 25.6%で成長しているが、国内生産量と輸出量を比較すると、国内生産の大部分は国内消費に向けられていることが推測される。

・マレーシアの世界各国からのかんしょの輸入額は 2021 年に 1,085 万ドル、輸入量は 17,300 トンとなっていて、2017 年から 2021 年にかけて、輸入額で年平均成長率 9.1%、数量で 10.7%増加している。

③ 商取引・流通・販売状況

・海外から輸入された生鮮果実がマレーシアの消費者に商業的に流通する経路としては、現地の輸入業者を経由するのが最も一般的であり、その多くは流通業者の役割も担っている。

④ 消費動向

・マレーシアのかんしょの国内市場規模は、「国内生産量 + 輸入量 - 輸出量」で、年間約 74,000 トンとなる。

・焼き芋として食されるほかに、野菜炒め、野菜煮込み料理の具材として利用されている。

⑤ 卸売・小売の状況

・かんしょは店頭ではグラム単位で売られているものが多く、パック（個数）で売られているものは少ない。

⑥ 競合商品との比較

- ・主な供給国とそのシェアは、輸出金額ベースでベトナム（45.2%）、インドネシア（20.2%）、台湾（8.4%）、日本（8.0%）、タイ（6.3%）である。

- ・日本のかんしょは、黄金色の果肉と甘く滑らかな風味が特徴で、マレーシアでは一般的に有名である。特筆すべき点として、ベトナム産のかんしょの主要な品種のひとつに、日本品種のかんしょがある。

（３）柿の市場調査概況

① 国内生産状況

- ・2018 年、マレーシア農業・食品産業省（MAFI）は、わずか 13 ヘクタールで柿が栽培され、60 トンを生産したと報告していた。（その後の統計データはなし）

② 輸出入の状況

- ・輸入額では、マレーシアは 2021 年に 564 万 5 千米ドル相当、約 3,691 トンの生柿を輸入している。

- ・マレーシアへの生柿の総輸入額は、2017 年から 2021 年にかけて年平均成長率マイナス 1.8%と小幅に縮小した。2021 年の輸入額は 2017 年に比べて 7.1%減少し、数量は 30.3%減少した。これは天候不良で生産が減少した韓国からの輸入が 80.3%減少したことが主な原因である。

③ 商取引・流通・販売状況

- ・海外から輸入された生鮮果実がマレーシアの消費者に商業的に流通する経路としては、現地の輸入業者を経由するのが最も一般的であり、その多くは流通業者の役割も担っている。

④ 消費動向

- ・マレーシアにおける柿の消費量は、柿の国内栽培は少ないので、「輸入量-輸出量」が市場規模の目安となり、年間約 3,700 トンである。

- ・柿はマレーシア原産ではないが、マレーシアの中国系住民を中心にニーズがある。マレー系住民の間では、他の甘い果物が好まれるため、柿はほとんど食べられていない。

⑤ 卸売・小売の状況

- ・小売店での販売単位は 4 個入りパッケージや 1 個ずつという形が殆どである。

⑥ 競合商品との比較

- ・主な供給国とそのシェアは、中国（58.6%）、韓国（17.9%）、オーストラリア（7.5%）、ニュージーランド（7.3%）、スペイン（3.2%）である。

- ・2021 年には中国が韓国を抜いて柿の最大供給国となり、輸入額の 58.6%、輸入量の 69.9%を占めている。

- ・中国産の柿は季節になると近所のスーパーマーケットに並び、とても安く手に入れることができる。一般的に甘くて歯ごたえがあり、大きさは小さめである。

- ・韓国は官民挙げてのマレーシアへの柿の輸出拡大に努めており、韓国産の柿を競争力のある価格で大量に供給しており、バイヤーは在庫状況に応じて柿を調達することができる。地元の消費者は、他国の柿より歯ごたえがあり新鮮な韓国の柿を好む。

（４）梨の市場調査概況

① 国内生産状況

- ・梨はマレーシアの外来種で、地元の農家ではあまり栽培されておらず、外国からの輸入が主体となっている。

② 輸出入の状況

- ・マレーシアの梨の輸入金額は、2021 年に 3,880 万米ドルで、2017 年から 2021 年の年平均成長率 1.2%と緩やかに増加したが、2021 年の輸入量 3 万 7 千トンで、2017 年の量より 15.2%減少している。

③ 商取引・流通・販売状況

・海外から輸入された生鮮果実がマレーシアの消費者に商業的に流通する経路としては、現地の輸入業者を経由するのが最も一般的であり、その多くは流通業者の役割も担っている。

④ 消費動向

・梨の国内栽培は少ないので、「輸入量-輸出量」が市場規模の目安となり、年間 3 万 7 千トンとなる。

・2017 年から 2021 年までの消費量は減少傾向である。

⑤ 卸売・小売の状況

・クアラルンプール、ペナン、ジョホールでは、中国産と南アフリカ産の梨が多く販売されている。ペナンとジョホールでは韓国産と日本産の梨を見つけるのは難しく、一部の高級スーパーマーケットや果物店にしか置いていない。

⑥ 競合商品との比較

・梨の主な供給国とそのシェアは、中国（76.5%）、南アフリカ（21.7%）、オーストラリア（0.5%）、韓国（0.4%）、日本（0.4%）などである。

・中国産の梨には 10 種類以上の品種があり、ほとんどの食料品店や果物屋で手頃な価格で広く入手することができる。

（５）メロンの市場調査概況

① 国内生産状況

・マレーシア農業・食品産業省（MAFI）によると、2020 年のマレーシアの Rock メロンの生産量は 6,456 トン（2016～2020 年の年平均成長率 13.2%）であった。

・Honeydew melon の 2020 年の生産は 2016 年比較で 5.9%縮小して 16,373 トンとなった。

② 輸出入の状況

- ・マレーシアの生鮮メロン輸出の大半はシンガポール向けで、2021 年、マレーシアはシンガポールに 250 万米ドル、5,334 トンの生鮮メロンを輸出した。
- ・マレーシアにおいて 2021 年に生鮮メロンは輸入金額で 694 万米ドル、輸入量で、5,628 トンであった。
- ・2017 年から 2021 年にかけて、マレーシアへの生鮮メロンの輸入金額 14.2%、数量で 5.7%の年平均成長率で増加した。

③ 商取引・流通・販売状況

- ・海外から輸入された生鮮果実がマレーシアの消費者に商業的に流通する経路としては、現地の輸入業者を経由するのが最も一般的であり、その多くは流通業者の役割も担っている。

④ 消費動向

- ・マレーシアのメロンの国内市場規模は、「国内生産量 + 輸入量 - 輸出量」で年間約 24,000 トンとなる。
- ・市場の 75%がマレーシア産であるが、輸入メロンは中高級品が多い。日本のメロンは高級ハイパーマーケットや果物専門店で卸されている。

⑤ 卸売・小売の状況

- ・Rock melon などの通常品質のメロンは量り売りがメインであるのに対し、日本からの輸出メロンのような高級品は一個当たりの値段になっている。

⑥ 競合商品との比較

- ・メロンの主な供給国とそのシェアは、中国（83.8%）、日本（6.2%）、オーストラリア（6.1%）、ブルネイ（2.1%）である。
- ・中国は圧倒的な輸出国であり、2021 年に輸入メロン総量の 92.8%、金額の 83.8%を供給している。

・日本の生鮮メロンの輸出量は 2017 年から 2021 年にかけて 26.5%、金額は 78.0%増加しており、比較的高価格帯の商品が輸入されていることが分かる。

・ブルネイのメロンは、市場において新たな競争相手であり、その主要ブランドである Superfish Growers という会社の Melts melon というブランド名で 3 年前からマレーシアに日本品種のマスクメロンを供給し始めている。

規制概況

- (1) マレーシアでは、[1983 年の食品法](#)⁵と [1985 年の食品規則](#)⁶が、食品規格、食品衛生、食品の輸出入、食品表示、食品広告、検査機関の認定など、食品の安全性と品質管理について定めている。
- (2) 保健省 (MOH) の食品安全品質部 (FSQD) は、これらの法律の実施と執行を担っている。FSQD は、1983 年食品法および 1985 年食品規則に基づき、コンプライアンス、サンプリング、食品施設検査、食品輸入規制活動、特定食品物質の認可などの食品安全プログラムを実施している。
- (3) 本調査の対象であるメロン、かんしょ、柿、梨などの青果物と、調査対象 4 品目を使った加工食品はこれらの法令の規制の対象となる。

輸出戦略検討

市場参入の際に考慮すべき主な事項を説明し、日本の輸出企業への提言を行う。

(1) ターゲットとする主な地域

クランバレー、ジョホール州、ペナン州は、マレーシアで最も重要な経済地域の一つである。これらの地域は、物流や小売のインフラが整備されており、マレーシアの他の地域よりも購買力が高い。

(2) 物流インフラ

⁵ <http://fsq.moh.gov.my/v6/xs/page.php?id=323>

⁶ <http://fsq.moh.gov.my/v6/xs/page.php?id=72>

マレーシアは物流インフラが整備されており、国内各地を結ぶ高速道路網が発達している。クランバレーを出発した生鮮食品は、卸売業者の倉庫から小売業者の倉庫までは 1 日～3 日程度で国内各地に届く。ただし、コールドチェーンの結節点での商品の取り扱いが不十分であったり、物流に携わる関係者の商品の取り扱いが雑であるなどの課題が感じられることもある。

（３）地元パートナー企業との協働

マレーシアでは、輸入手続きはライセンスと設備を持つ現地の輸入業者や卸売業者が行う必要がある。マレーシアに進出する日本企業は、市場参入・拡大のための戦略的な計画を検討し、現地パートナー企業との対面協議を粘り強く繰り返す必要がある。市場に精通し、小売業に強いコネクションを持つ現地卸売業者や輸入業者と長期的な関係を築くことが、市場参入・拡大のカギを握る。一方、日本の輸出業者は、現地代理店に対して、商品供給の安定性、包装、支払い条件の柔軟性、マーケティング活動のサポートなどを重視する必要がある。

（４）現地商慣習への配慮

日本の輸出企業は、様々な民族の異なる商習慣を尊重する必要がある。マレーシアでは上下関係が重要なので、日本の輸出業者と現地流通業者の同じランクのメンバー同士で直接協議すべきである。

マレーシアでは中国系の輸入事業者・卸売事業者が多く、その場合基本的に英語で商談を実施するが、もしマレー系の流通業者の場合にはマレー語の通訳を同席させて、マレー語で商談を実施するのが良い。

（５）価格戦略、ポジショニング、ターゲット顧客層

マレーシアは価格に敏感で、競争の激しい市場である。市場調査の結果、日本の輸入農産品は現地農産品と価格競争をすることはお勧めできない。高級スーパーで売られている日本の野菜や果物は、マレーシアではプレミアム商品として認識されているからである。日本の輸入産品が低価格の現地産品と差別化を図るために、日本の輸出業者は効果的なブランディングとプロモーション戦略を確立し、高級品のポジショニングを強化し、高所得者層をターゲットにする必要がある。マレーシアの高所得者の典型的なプロフィールは、30 歳から 55 歳で、高い教育を受け、高収入の専門職や管理職に就いている人たちである。また、クアラルンプールなどの都市部に住み、高い購買力を持っていることが多い。このような高所得者層は、高級品、ハイエンドな体験、高品質な製品に価値を見出す傾向がある。また、ブランド志向が強く、自分の価値観やライフスタイルに合った商品・サービスを求める傾向がある。

小売だけでなく、マレーシアの外食産業、特に高級な日本食レストランやホテルでは、高価格・高品質な日本産農産物を提供する機会がある。

（６）販促活動

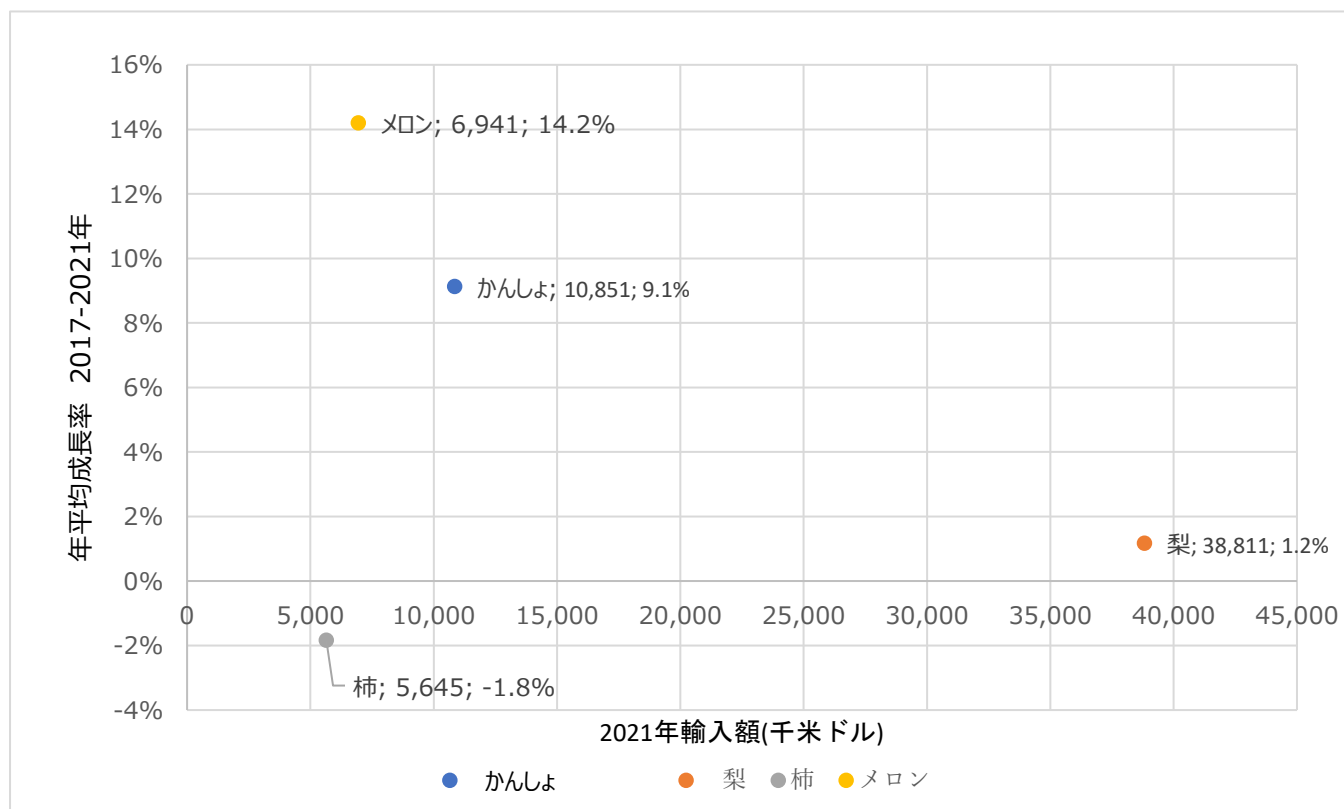
日本の輸出業者は、現地の流通業者と協力して販促活動を行うことで収益を高めることができる。例えば、新規消費者獲得のための小売店での食品サンプリング、シェフユーザー獲得のための食品フェアやセミナーでの調理実演、既存消費者向けの印刷物やオンラインメディアへの広告、小売店向けの販売促進資料の提供、若者向けのネットインフルエンサーの活用、マレーシアの日本食フェアのような業界団体、政府・地方自治体・公的機関が支援するのプログラムへの参加などが挙げられる。日本産青果物の商流の大きな割合は小売店向けで、高価格のため購入ハードルが高いため、小売店等での試食提供が最も有効な販促手段と考えられる。

1.0 市場概要

本調査で調査対象としている 4 品目について、マレーシアで生産が多いのはかんしょとメロンである。梨と柿の国内生産量は僅かである。

マレーシアの最大の輸出先はシンガポールで、これはマレーシアとシンガポールの地理的な近さによるものである。

図：本調査対象青果物の 2017-2021 年輸入額の年平均成長率（％）と 2021 年輸入額（千米ドル）



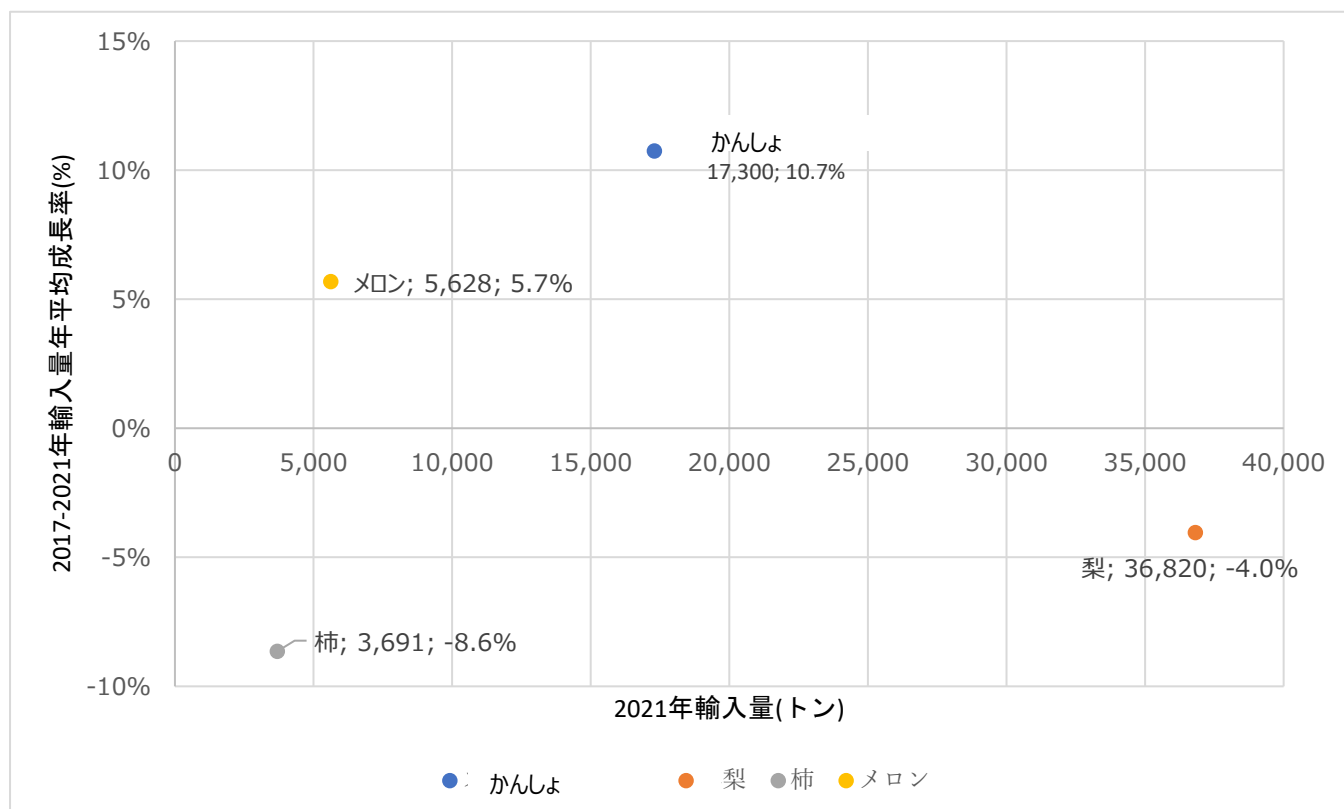
出典：International Trade Centre (ITC) Trade Map

マレーシアの輸入額では、2021 年の梨の輸入額が約 3,900 万ドルと最も大きく、次いでかんしょ、メロン、柿の順であった。かんしょとメロンの輸入は、マレーシアへの輸入額における 2017-2021 年の年平均成長率はそれぞれ 9.1%と 14.2%であり、過去 5 年間で急速に伸びている。梨と柿の輸入額は、この間、停滞している。

輸入量も同様の傾向であるが、梨は輸入量が減少しているものの、輸入金額は増加しており、高価格品への移行と消費量の減少が見られる。メロンは輸入額の伸びが輸入量の年平均成長率を上回り、柿では輸入量の減少が輸入額の減少を上回っていることから、同様の高価格品への移行が推察される。かんしょは、輸入量、輸入額ともにほぼ同じペースで増加している。

本セクションの散布図からわかるように、梨は輸入額は高いものの、マイナス成長のカテゴリーに属し、かんしょとメロンは比較的輸入額も輸入量も少ないが高成長のカテゴリーに属している。柿は他の 3 品目に比べて輸入量が少なく、マイナス成長であるため、マレーシアではニッチな市場であることがわかる。柿と梨は、輸入量の年平均成長率がマイナスであり、市場へ特徴のある訴求ポイント（ターゲットユーザーに商品への興味や利用・購入を促すための情報）が必要である。

図：本調査対象青果物の 2017-2021 年輸入量年平均成長率(%)と 2021 年輸入量(トン)



出典 : International Trade Centre (ITC) Trade Map

輸入量に関して、梨、柿、メロンは中国からが圧倒的に多い。かんしょはベトナムからの輸入量が圧倒的に多い。

関連する HS コードの上位供給国リストに繰り返し登場する国は以下の通りである。

表：調査対象品目ごとの輸入国ランキング

調査対象 製品	順位 (1)	順位 (2)	順位 (3)	順位 (4)	順位 (5)	順位 (6)
梨	中国： 76.5	南アフリカ： 21.7	オーストラリア： 0.5	韓国： 0.4	日本： 0.4	チリ： 0.3
柿	中国： 58.6	韓国： 17.9	オーストラリア： 7.5	ニュージーランド： 7.3	スペイン： 3.2	日本： 2.9
メロン	中国： 83.8	日本： 6.2	オーストラリア： 6.1	ブルネイ： 2.1	シンガポール： 0.8	韓国： 0.5
かんしょ	ベトナム： 45.2	インドネシア： 20.2	オランダ： 8.4	日本： 8.0	タイ： 6.3	中国： 6.0

注：表内の数値は、輸入金額ベースでの市場シェア（単位：％）

出典：ITC Trade Center

一般に、梨、メロン、柿、かんしょなどの輸入果実の価格は、季節によって変動し、生産期間の短いものは供給が需要を上回ることもある。マレーシアにおける果物の卸売価格は、主に数量、品質、距離、品種、海外の供給者と国内の輸入業者との関係などのいくつかの要因に左右される。一般的な果物の小売価格の小売マージンは通常 40% から 60% であるが、高級品や需要のある果物は 100% から 200% の幅がある。なお、後述の卸売価格表は、注文数量、品質、物流などの変動要因を考慮していない。

1.1 かんしょ

国内生産

かんしょは、マレーシアでは重要な換金作物とされている。マレーシア農業・食品産業省（MAFI）は、戦略計画 2016-2020 のもと、換金作物の生産性向上と川下産業分野の強化を目的とした換金作物クラスター開発プロジェクトを実施した。このプロジェクトは、川下産業の主な原料として使用されるキャッサバ、かんしょ、トウモロコシを中心とした換金作物の生産を対象としている。より良い現金作物の生産・販売のために生産、品質管理、加工、マーケティングを統合することなどにより農業クラスター（農家をはじめ、地域の関係事業者が連携・結集し、地域ぐるみで高収益型の農業を実現するための体制）を改良したり、新たな農地を開設したりする取り組みもある。

2021 年の作付面積は 3,410 ヘクタール（ha）で、2016 年と比較して 21.8%増、年平均成長率は 4.0% となり、生産量は 2016 年から 2021 年の間に年平均成長率 6.3%で成長している。かんしょの作付面積の 50% 以上、生産量全体の 60%前後をペラック州（半島マレーシア北西部）が占め、次いで作付面積、生産量ともに 20%近くを占めるクランタン州（半島マレーシア北部）となっている。

マレーシアのかんしょの栽培サイクルは 3～4 カ月で、1 年に 3 回収穫される。マレーシアのかんしょの収穫時期は、1～3 月、8～10 月、11～12 月の 3 回（品種により異なる）である。

表:マレーシアにおけるかんしょの面積、生産量および生産額

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
作付面積(ヘクタール)	2,800	2,727	3,062	3,418	3,278	3,410
生産量 (トン)	43,212	41,245	52,225	56,343	54,750	58,714

出典：マレーシア農業・食品産業省（生鮮食品向けと加工食品向けの区分は不明）

かんしょの栽培は、主にマレーシアの小規模農家によって行われている。マレーシアでは、Gendut（MSP94）、VitAto、Cina など数種類の品種が栽培されている。

図: マレーシアで生産されているかんしょの品種

マレーシアで生産されているかんしょの品種	写真
Gendut	

マレーシアで生産されているかんしょの品種	写真
VitAto	
Cina Kanjo	
Tainung 57	
Banting	
Biru Jepun	

出典：サラワク州農業省トウルク・アブドゥル・ラーマン大学（UTAR）農業科学誌

Gendut と Cina Karjo は最も一般的なもののようである。乾燥タイプのかんしょと呼ばれる Gendut は、塊茎の皮は黄褐色で滑らかで薄く、果肉は黄色である。炒めたり茹でたりしても柔らかくなりにくい。Cina Karjo は、果肉が粗く薄く、皮はオレンジ色をしている。茹でたり揚げたりすると果肉が柔らかくなり、少しぬめりが出る。VitAto はマレーシアで人気のあるオレンジ色のかんしょの品種で、栽培が簡単で収穫量も多い。VitAto の粉は様々な食品組成物の重要な材料となり、クッキーや製パンの製造業での可能性があると見られている。

Gendut と VitAto という品種は、マレーシア農業研究開発研究所（MARDI）が開発したものである。

輸出・輸入

表：マレーシアの HS コード 071420（かんしょ、生鮮、冷蔵、冷凍又は乾燥、スライス又はペレット（小粒）の形態を問わず）の輸出額（千米ドル）と数量（トン）、国別、2017-2021 年

輸出先国	2017		2018		2019		2020		2021		2021 年比率	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
世界	403	1,004	409	868	458	1,142	592	1,406	1,004	2,282	100.0%	100.0%
シンガポール	395	999	372	847	453	1,138	583	1,397	1,003	2,281	99.9%	100.0%
ブルネイ	3	2	0	0	1	2	0	0	1	1	0.1%	0.0%

出典：International Trade Centre (ITC) Trade Map （生鮮食品向けと加工食品向けの区分は不明）

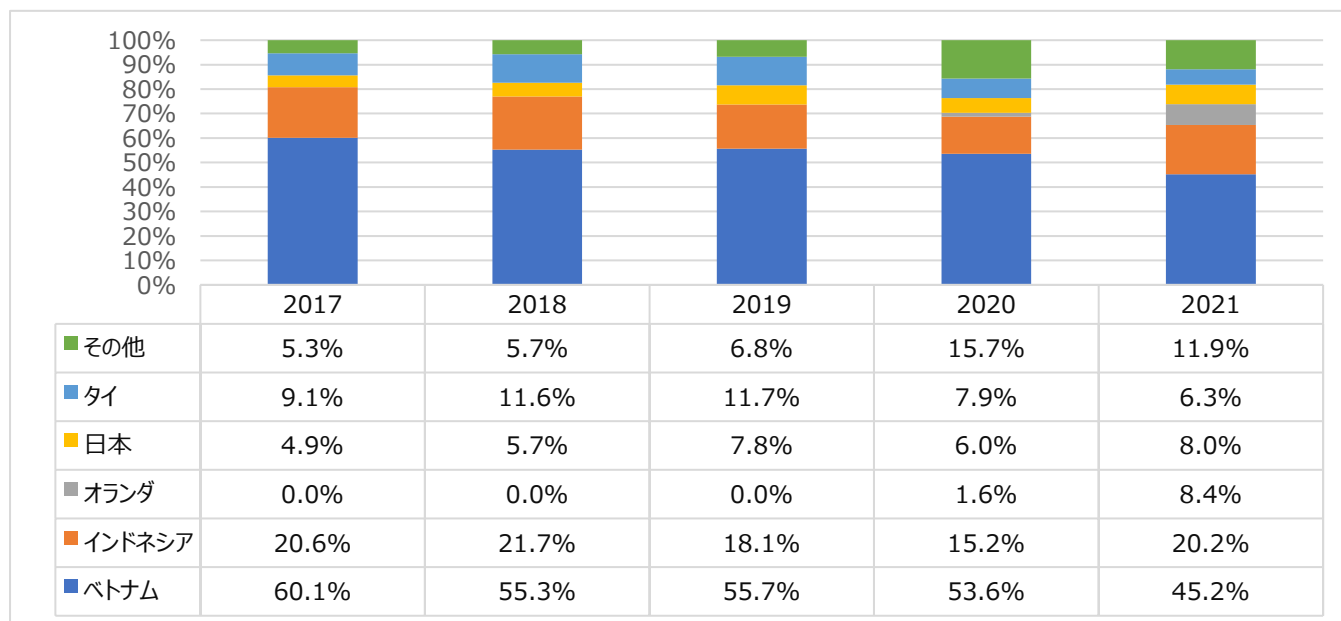
マレーシアのかんしょ輸出は 2017 年から 2021 年にかけて年平均成長率 25.6%で増加し、2021 年には輸出額で約 100 万米ドルに達している。過去 5 年間、シンガポールはマレーシアからのかんしょの最大の輸入国であり、輸出額の 99%以上を占めている。国内生産量と輸出量を比較すると、生産の大部分は国内消費に向けられていると考えられる。

表：マレーシアの HS コード 071420（かんしょ、生鮮、冷蔵、冷凍又は乾燥、スライス又はペレット（小粒）の形態を問わず）の国別輸入額（千米ドル）及び数量（トン）（2017-2021 年）

輸入元国	2017		2018		2019		2020		2021		2021 年比率	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
世界	7,651	11,500	7,824	11,490	8,887	13,786	11,622	19,034	10,851	17,300	100%	100%
ベトナム	4,602	4,316	4,325	3,799	4,950	4,454	6,226	6205	4,910	4,574	45.2%	26.4%
インドネシア	1,575	3,300	1,699	3,341	1,607	4,174	1,767	5,449	2,188	6,255	20.2%	36.2%
オランダ	0	0	0	0	0	0	184	332	913	1,348	8.4%	7.8%
日本	374	146	445	169	689	241	703	206	865	261	8.0%	1.5%
タイ	694	3,192	906	3,717	1,041	4,302	920	3,853	688	2,841	6.3%	16.4%

出典：International Trade Centre (ITC) Trade Map （生鮮食品向けと加工食品向けの区分は不明）

図：かんしょの輸入シェア（％）の推移（2017 年—2021 年）



出典：International Trade Centre (ITC) Trade Map

2017年から2021年にかけて、マレーシアの世界各国からのかんしょの輸入量は、金額で年平均成長率9.1%、数量で10.7%増加し、2021年の輸入量は17,300トンで1,085万米ドルになっている。ただし、過去5年間、輸入量は増減しており、2020年に輸入額と数量が前年より増加したのに対し、2021年には減少している。

2021年の輸入額シェアは、ベトナムが45.2%でトップである。ベトナムは世界でも有数のかんしょ輸出国である。2021年、かんしょの輸出額では世界第7位であった。

ベトナムに続き、インドネシアとオランダが重要な供給国となっている。総輸入量6,255トンのインドネシアは、2021年にマレーシアに最大の量のかんしょを輸出した。金額ベースで世界第2位のかんしょ輸出国であるオランダは、マレーシアへのかんしょ輸出を本格化し、2020年の小さな輸出量ベースからではあるが、2021年のマレーシアへの輸出量は対前年比で306%上昇した。

日本は2021年のマレーシアへのかんしょの第4位の供給国で、2020年と比較して金額で24%、数量で27%増の261トン、86万5000米ドル相当を輸出した。

市場規模

2021年のマレーシアのかんしょの国内市場規模は、「国内生産量＋輸入量－輸出量」で、年間約74,000トンとなる。

競合との比較

マレーシアでは、かんしょの国内生産が盛んである。マレーシアのかんしょは安価であるが、味はあまり甘くない。この問題を解決するためにマレーシア農業研究開発機関（MARDI）（（農業・食糧安全保障省（MAFS : Ministry of Agriculture & Food Security）（旧 農業・食品産業省（MAFI））傘下の研究開発機関）は、地元の品質向上のために新品種を導入し、加えてかんしょを生産し収量を向上させるための肥料開発や機械を推進した。また、マレーシアでは、地元農家の収入を増やし、最終的にマレーシアの自給率（SSR）を高めるための重要な戦略として、かんしょの普及に取り組んでいる。SSR（Self-Sufficiency Ratio）とは国内需要を満たすために必要な生産量のこと、現在のマレーシアのかんしょの SSR は 78%であり、まだ不十分と見られている。

図：マレーシアの小売店での地元産かんしょの販売風景



出典：Orissa International による店頭調査

国内の輸入かんしょは、ベトナム、インドネシア、オランダ、日本が大半を占めている。ベトナムのかんしょは、果肉が黄色く、ナッツのような風味があり、しっかりしているのが特徴である。一方、インドネシアの有名なかんしょ、チレンブ（Cilembu）は、香ばしい香り、黄色いオレンジ色の果肉、ピロードのような質感で知られている。焼き芋にすると、独特の香りと甘みがあり、蜜のような砂糖のような艶が出ると言われている。

ベトナム産のかんしょの主要な品種のひとつに、日本品種（日本からの原種を使用）のかんしょがある。特に、マレーシア、ベトナム、オーストラリアなどの国々でも、日本品種のかんしょを栽培・生産し、商品化している。

図：ベトナム産とインドネシア産のかんしょの写真

かんしょの種類	写真
Cilembu（インドネシア）	
ベトナム産	

出典：マレーシア農業・食品産業省、HX 社

図:マレーシアの小売店におけるインドネシア産かんしょの販売状況



出典 : Orissa International による店頭調査

図:マレーシアの小売店でベトナム産かんしょの販売風景



出典 : Orissa International による店頭調査

また、台湾はマレーシアに黄金色のかんしょを輸出している。黄金色のかんしょは、クリーミーな果肉と甘い味わい、そして薄い皮が特徴である。

図：マレーシアの小売店での台湾産かんしょの販売状況



出典：Orissa International による店頭調査

日本のかんしょは、黄金色の果肉と甘く滑らかな風味が特徴で、マレーシアでは一般的に有名である。特に、日本の千葉県庁は、ここ 5～6 年、マレーシアでかんしょの販売促進を支援している。

図：マレーシアの小売店での日本産かんしょの販売状況



出典：Orissa International による店頭調査

卸売価格と小売価格

マレーシアの Purple Sweet Potato は、現地で需要が強いため、卸売価格と小売価格の差が大きいためである。日本産かんしょの小売マージンは約 90%と比較的高く、一方、地元産の Yellow Sweet Potato の小売マージンは 84.5%である。Orange Sweet Potato は 54.1%と他の品種に比べ小売マージンが少ない。（下記の表中に「Japanese Sweet Potato (外国名)」が記載されているが、これは日本品種を現地国で生産したものである）

表：かんしょの卸売価格

ブランド名	販売価格
Japanese Sweet Potato (マレーシア)	MYR 7.0 / kg
	MYR 6.3 / kg
Purple Sweet Potato (マレーシア)	MYR 4.2 / kg
	MYR 17.8 / kg (有機栽培)
Red Sweet Potato (マレーシア)	1 袋 (500g) あたり MYR 4.1
Orange Sweet Potato (マレーシア)	MYR 4.0 / kg
Yellow Sweet Potato (マレーシア)	MYR 8.1 / kg

出典：Dropee; Supply Bunny

表：かんしょの小売価格の概要

ブランド名	販売価格
Japanese sweet potato (マレーシア)	MYR 3.5/個
	MYR 12.0 / kg
Japanese sweet potato (ベトナム)	MYR 8.9-10.8/kg
Japanese sweet potato (オーストラリア)	MYR 20.9 / kg
Japanese sweet potato (日本)	MYR 28.0-48.0/kg
Purple sweet potato (マレーシア)	MYR 5.4-15.0/kg
Orange sweet potato (マレーシア)	MYR 6.2 / kg
Orange sweet potato (インドネシア)	MYR 13.9 / kg
Yellow sweet potato (マレーシア)	MYR 15.0 / kg
Yellow sweet potato (ベトナム)	MYR 11.2 / kg

出典：Orissa International による店頭調査

表:かんしょの商品別・地域別小売価格情報

ブランド名 (ラベルに記載)	原産国	価格のベースとなるもの	価格(MYR)
Aust Sweet Potato	オーストラリア	重量 /1kg	20.9
Australia Gold Sweet Potato L Size	オーストラリア	重量/1kg	35.0
Taiwanese Sweet Potatoes	インドネシア	重量/1kg	7.9

ブランド名 (ラベルに記載)	原産国	価格のベースとなるもの	価格(MYR)
Indonesia Orange Sweet Potato	インドネシア	重量/1kg	1.4
Japan Satsuma Imo (Sweet Potato) M Size	日本	重量/1kg	39.0
Sweet Potato (large bag)	日本	パッケージ /3 個	17.9
Sweet Potato (Beni Haruka)	日本	パッケージ/3 個	15.9
Sweet Potato Silk Sweet	日本	パッケージ/3 個	16.9
SI Sweet Potato Japan	日本	重量/1kg	28.0
Japan Sweet Potato	日本	重量/1kg	3.3
SL Organic Japanese Sweet Potato	マレーシア	重量/1kg	15.0
SM Organic Purple/Yellow Sweet Potato	マレーシア	重量/1kg	15.0
Local Sweet Potato (Keledek)	マレーシア	重量/1kg	9.1
Local Purple Sweet Potato (Keledek Ungu)	マレーシア	重量/1kg	7.6
Sweet Potato White	マレーシア	重量/1kg	5.3
Sweet Potato Purple	マレーシア	パッケージ/3 個	8.9
Sweet Potato Orange	マレーシア	重量/1kg	6.0
Sweet Potato	マレーシア	重量/1kg	1.1
Sweet Potato Orange	—	重量/1kg	6.2
Japanese Sweet Potato (Yellow)	ベトナム	重量/1kg	9.9
Japanese Sweet Potato (Purple)	ベトナム	重量/1kg	10.9
Japanese Sweet Potato Purple L Size	ベトナム	パッケージ/600g	8.9
Aust Golden Sweet Potato	オーストラリア	パッケージ/500g	16.0
Honey sweet potato	インドネシア	パッケージ/500g	6.5
Indonesia Honey Sweet Potato	インドネシア	パッケージ/500g	6.5
Indonesia Purple Sweet Potato	インドネシア	重量/1kg	6.0
Potato Yellow	日本	重量/1kg	48.0
Potato Purple Japan	日本	1 個	48.0
Potato Kagoshima Jpn	日本	重量/1kg	59.0
Japan sweet potatoes	日本	重量/1kg	48.0
Purple Potato	マレーシア	重量/1kg	9.0
Taiwan sweet potato	台湾	重量/1kg	9.0
Purple Sweet Potatoes	マレーシア	重量/1kg	5.5
CFS Orange Sweet Potato Local	マレーシア	重量/1kg	10.0
CFS Purple Sweet Potato Local	マレーシア	重量/1kg	10.0
Purple Sweet Potatoes	マレーシア	重量 /1kg	6.5

出典 : Orissa International による店頭調査